

2017年12月購入図書

No.	図書名	内容	著者名	出版社
1	生きていくあなたへ 105歳どうしても残したかった言葉	105歳、死の直前まで語った、希望と感謝の対話。人生において何が幸せなのかということをも最後まで力を振りしぼって伝えたかった。「死ぬのは僕でも怖いんだよ。」だからこそ、朝起きて自分が生きていることが心から嬉しい。105歳になっても尚、僕には知らない未知の自分がたくさんあると感じているのです。これから生きていくあなたと、迷っているあなたと、傷ついているあなたと、対話し言葉をつたえたい。	日野原重明	幻冬舎
2	女と骨盤	女性は、毎月の生理や出産で骨盤が大きく動くことを、体調の変化として捉えているはず。骨盤を意識することで、現在の自分の体調や気分がなぜその状態なのかを解説、例えば、「生理は三日目と四日目にこそ休養をとるべき」「更年期にはやる気が起きない2年間が誰にでも訪れる」など。不調の解決方法は、とにかくとことん骨盤をゆるめることなのです。生理、セックス、出産、更年期において、女性の骨盤はどのような動きをするのか、まずは知ることが重要。	片山洋次郎	文藝春秋
3	望むのは	多様性と生きる青春。「きみがいったいなんのかは、きみがわかっていけばよろしい。」他人と比較できない自分を、自分自身で捉える。その上で結ばれていく人間関係は、異性間、同性間、人間と動物間、どれであっても健やかでまぶしい。前作『リリース』では男女同権、ジェンダーレスなどをテーマに据え三島由紀夫賞の候補にもなった著者の最新作。	古谷田奈月	新潮社
4	私の中のわたしたち 解離性同一障害をいきのびて	DV防止などの社会活動に取り組む弁護士でもある著者が、実体験を交えて、自己回復までの道のりと、社会全体のしきみをわかりやすい内容で説明。レイプなどの性暴力の被害者が示す定型的な解離反応に関しても深い示唆を与えてくれる。トラウマのサバイバー、支援者や虐待問題に関心を持つすべての人の心に届く本であり、生きづらさを覚える万事のための応援歌となる一冊。品位と勇気をもって生きるとはどういうことかを再認識させてくれる。	オルガ・トゥルヒーヨ 伊藤淑子(翻訳)	国書刊行会
5	子や孫にしばられない生き方	孫が生まれても、私は「おばあちゃん」じゃない。私は私だ！！「孫育てこそ余生の幸せ」なんて世間がつくりあげたキレイゴト。イクバア？イクジイ？そんなお役目、勝手に決められたくありません！「いいおばあちゃん」ではなく、誰にも依存せず自分の幸せを追求する人生を歩むべし！！子どもや孫といい距離をとり、お互いに自立した生活を送るための痛快エッセイ&アドバイス集。	河村都	産業編集センター
6	知ってる？LGBTの友だち マンガレインボーKIDS	あなたの身近にレインボーな友だちがいるって知っていた？レインボー(虹色)は、性の多様性を表わすLGBTの象徴。L=レズビアン、G=ゲイ、B=バイセクシュアル、T=トランスジェンダー、どんなことを感じているのかな？なにを感じているのかな？このマンガで、レインボーな友だちについて知ろうLGBTについてちゃんと描かれているのはもちろん、LGBTにからめて進路や家族関係の悩み、友人関係での悩みや嫉妬など中高生のリアリティが詰まっている。ステレオタイプじゃない。そして等身大の明るさがある。星5つです。すべての保健室がこうだったらいいのに。	手丸かの子(著) 金子由美子(監修)	子どもの未来社

7	モラルハラスメント あなたを縛る見えない鎖	脅迫、監視、ストーカー行為、セックスの強要、虐待など、アメリカにおけるモラルハラスメントの実態と、そこからの脱出方法を解説。ゲイ、レズビアンなどLGBTカップル間の事例、SNSを利用した支配の実態、またフェミニズム的な観点からモラハラの要因を分析する姿勢など、DVに対するケアでは先進国であるアメリカの事例から学ぶところが多々あり。	リサ・アロンソン・フォンテス 宮家あゆみ(訳)	晶文社
8	仕事と家庭は両立できない？ 「女性が輝く社会」のウソとホント	私たちの永遠の課題(原題Unfinished Business)である仕事と育児・介護とのバランスの問題を、「男性／女性」の対立ではなく、人類の発展を駆動してきた「競争」と「ケア」というふたつの視点から読み解いたユニークな一冊。理念と現実課題とのバランスを重視する現代フェミニズムの金字塔と言える話題作。働く女性の絶大な支持を集める篠田真貴子さんの解説も、読み応え十分です。	アン＝マリー・スローター 篠田真貴子(解説) 関美和(訳)	NTT出版
9	なぜ夫は何もしないのか なぜ妻は理由もなく怒るのか	なぜ夫婦はこうも相容れないのか! ? 「夫婦なのに夫婦じゃないような気がする」「夫(妻)の気持ちがわからない」「些細なことでケンカになってしまう」「もっとお互いを理解し合いたい」そんな悩みをもつ夫と妻のために、夫婦問題カウンセリング7000件の実績をもつ著者が、これまでの相談内容から導き出した解決方法を紹介! 具体的な事例をあげ、「夫と妻の考え方の違い」「夫と妻の受け取り方の違い」「問題になりやすい事柄」「改善策につながるヒント」「考え方のポイント」を、家事、育児、会話など38のテーマ別にアドバイス。このままでいいのか悩んだらこの本を開いてください。いま何かを決断をしようとしているなら、その前に読んでみてください。きっとこの本の中にあなたの答えが見つかるはずですよ。	高草木 陽光	左右社
10	ジョージと秘密のメリッサ	4年生のジョージは見た目は男の子だが、内面は女の子。家族にもいえないけれど、本当は誰かにわかってもらいたい。特にママには。学校の劇で女の子役を希望してみるのが、先生は聞き入れてくれない。ふとしたはずみで、親友の女の子ケリーに本当のことを打ち明けると、ケリーはジョージの気持ちを理解し、2回めの公演で役を入れ替わろうという。ジョージはママに気持ちを伝えたい一心で実行する。本番を見事に演じ切ったジョージは、自分を開放する喜びを味わう。かたくなだったママも、ジョージのありのままを受けとめようとしてくれるようになる。	アレックス・ジーノ 島村 浩子(訳)	偕成社
11	生涯未婚時代	2030年には男性の3割、女性の2割が生涯未婚と予測されている。若者の結婚観はどうか。ドラマ「逃げ恥」や「タラレバ」、六つ子が成人したアニメ「おそ松さん」ほか、さまざまな物語を検討しつつ、横並びで人生が進む「昭和の人生すごろく」とは違う個人たちの未来像を探る。	永田 夏来	イースト新書
12	夫の定年:「人生の長い午後」を夫婦でどう生きる?	人生後半を穏やかに暮らすには夫も妻も精神的に自立して、互いの落としどころをみつけながら機嫌よく過ごすこと世界に冠たる長寿社会の日本で、男も女も真の意味で「幸せな定年後」を手に入れるためには一体何が必要なのか。本書では五組の夫婦のインタビューを通じて、定年を迎えた人生の後半に、より良い夫婦関係を築く秘訣を紹介する。	グループわいふ 佐藤ゆかり	ミネルヴァ書房

13	「逃げ恥」にみる結婚の経済学	「逃げ恥」の舞台で見せた”因数分解”で、結婚の経済価値を明らかに。年収600万未満の専業主婦の妻に『好きの搾取』をしている、専業主婦の月給「19.4万円」はどうやって計算されたの？あなたの家の「専業主婦の給料」は？これまで、「幸せ」という甘いコーティングに包まれた「結婚」をさまざまな切り口で明らかにしていきます。家事労働の経済価値、育児の対価はいくら？生存戦略として結婚は「共同事業型」、二人の将来像シミュレーション。結婚の解剖図鑑ともいえる1冊。	白河桃子 是枝俊悟	毎日新聞出版
14	逃げるは恥だが役に立つ 1巻から9巻	ドラマ化され話題のコミック。現代における結婚を真正面から描く。女性学や社会学の分野で多くの研究者が訴えてきた家事労働の価値や女性が普段感じているモヤモヤを言語化してくれている。	海野なつみ	講談社
15	東京の夫婦	劇作家・演出家でもある著者は、3年前に再婚。相手は20歳年下の31歳箱入り娘元銀行員。東京では、地方から人が出てきて、東京の人になる。出会うはずのない人が出会い家族をつくる。「東京の夫婦」とはそういうものである。認知症を患う母の介護など深刻な話題も赤裸々に描き、てきぱきと物事を進める妻の前向きな人柄がうかがえる。何で結婚するのか？「愛情は、婚姻で永遠を約束するものではありません。愛を持続させるためには怠慢であってはならないことことを知っているのが二度目の結婚です。夫婦になって生きやすくなりました。何で結婚するのか？という考えが、昔は欠落していました。好きであれば何でもいいじゃないかと。今は、ないものを求めてくれる方が、愛より安心できます。」	松尾スズキ	マガジンハウス
16	ナビラとマララ 「対テロ戦争」に 巻き込まれた二人の少女	対テロ戦争の犠牲者である、パキスタンの同じ部族の地域出身の二人の少女。米軍のドローン攻撃で祖母を失い、自らも大けがを負ったナビラさんはあまり注目されていません。アメリカと敵対するタリバンに銃撃された、マララさんはその後アメリカの議会で、部族へのドローン攻撃の停止を求め、また世界にイスラムの女性達に教育をと訴え、ノーベル平和賞を受賞しています。二人の境遇を分けたものは？「加害者は誰なのか？」という違いこそが、彼女たちの訴えが世界に届くかどうかを決めるのです。歴史を振り返り、暴力をうむ土壌を解消する努力を促すよう、小学生高学年から理解できる言葉で伝えていきます。	宮田律	講談社
17	消えない月	出版社に勤務する松原と、マッサージ師のさくらは付きあいはじめ、そして別離する。それで終わりのはずだった。だがここから物語は急展開に。なぜ、さくらは、僕から離れようとするのだえろう。どうして松原さんは別れてくれないのだろう。この感情は、恋なのか、ストーカーなのか。加害者と被害者、ふたりの視点から「ストーカー」を描いた視点に心えぐられる。	畑野智美	新潮社